

北登会会報2023



会長あいさつ

高林 宏 (25 回)

夏空に湧き上がる入道雲を見ると夏山合宿の赤石岳東尾根から見たアルプスの稜線を思い出します。今年の現役生の夏山合宿は南アルプス塩見岳とのこと。途中下山となりましたが、無事の帰還は何よりでした。サポートについてくれたOB 2 名もお疲れ様でした。

塩見岳は鉄兜のような独特の山容で、山頂付近は急峻な岩峰となっており、アプローチの長いことから登山チャンスの少ない山です。南アルプスの3000mに登頂できたことは現役生にとって今後の登山活動に自信をつける体験となったことでしょう。

北登会ではOBの親睦を深め、登山に参加する機会を増やそうと考えています。また現役生の部活動に対して登山用具や山行への同行などを支援しています。

今後も現役の活動を支援してまいりますので、引き続き会へのご協力をよろしくお願い致します。



北高山岳部活動状況

浜松北高等学校山岳部

顧問 佐々木 努



北登会の皆さんには、後輩たちのために心のこもった応援を物心ともどもいただき御礼を申し上げます。特に鈴木克巳副会長にはよく同行していただき、生徒達には北登会の看板イメージになっています。

今年の新入生は女子6人、男子8人の14人です。男女とも入部希望者多数のためセレクションを実施しました。インターハイの最終予選では、女子(3年、2年の混成チーム)が6位、2年生の男子が10位でした。2年生は来年の雪辱を期しています。

なにはともあれ、何かと忙しきさせられている面も否めないこの学校で、受験勉強や学校祭の準備のため、インターハイ出場を諦める3年生が多い中、インターハイで競いたいという3年生女子が存在したのはとてもうれしいことでした。

【2023 年度活動状況】

5月3日、4日に秋葉山で恒例の3年生を見送る会を行いました。17人の3年生の山岳部「愛」が後輩に伝わる印象深い山行になりました。真剣にやったからこそいい言葉を口にしてくれました。

夏山合宿は8月3日から7日までの4泊5日、4年前に実施した南アルプス南部縦走の続き（塩見岳～荒川岳）を歩くものでした。ここ2年間、卒業生たちも参加してきた夏山合宿ですが、今年は卒業したばかりの鈴木豪太君（75回生）と影山直男樹さん（45回生）の参加をお願いしました。

振り返りますと、コロナ禍のためにこの3年間は感染に注意しながら活動してきました。3年前は夏休みの合宿活動が不許可で、9月に小屋泊で妙高山に行きました。

一昨年は夏の合宿が不可になりそうなところ、校長独自（つまり県教委の健康体育課は原則中止せよ、と言っているが、諸事情があってキャンセルが難しい場合のみという例外を我々に善意に解釈してくれたのです。）の判断で白馬岳～朝日岳の山行が実施でき、昨年は雲の平横断でしたが、コロナには用心しました。山岳部独自のコロナ対策マニュアルも作りました。大切なのは、山小屋の人たちに移さないこと。まず、ウイルスを持ち込まないことでした。その点、今年は用心が足りなかったかもしれません。

8月3日（木）6時に北高を出発し、11:50に鳥倉登山口に到着。12:30に登山開始。三伏峠まで3時間の行程。16:00過ぎに到着。9張りのテントを設営し、すき焼きを食べる。アメリカの牛もおいしくなったものだ。8時に寝て、4時に起きる。ここまでは予定通りだったが、朝、風邪症状を訴える生徒が出ました。そこで、その生徒と2週間前にコロナにかかった生徒との2人をテント番に置いていく。トランシーバーを買い足したので、テント場と登山の2隊のそれぞれが持てる。風邪症状の推移を知るには好都合の日程だった。塩見小屋まで順調。トウヒやツガの樹林帯が気持ちよい。塩見へはすぐに行けると思ったが、脆い岩場の登りに時間がかかる。でも山頂にたどりつくとも天気は快晴。北アルプスは雲が上がって見えなくなったが360度の展望を楽しむ。2年生にとっても、富士山以外では初めての3千メートル峰なので、新鮮だったろう。それも南アルプスのど真ん中。めったに来られない山頂である。テント場に帰ってきて、生徒の熱が収まらないので当然疑いました。コロナかどうかわからないのですが、可能性があれば生徒を下山させなければなりません。明日、高山裏避難小屋まで入れば、他に感染者が出たときに進退窮まります。計画書の余白に選択肢をチャート化しました。柴田先生と影山さんと鈴木豪太君のOBを交えて相談し、腹は下山に固まりました。保護者への連絡、交通手段の確保もできた（三伏峠では携帯が使えます）ので、生徒を集めて話をし意見を求めました。本当は荒川三山を縦走し、千枚小屋に泊まりたかった。無念ですが仕方ありません。生徒もよく理解してくれました。翌朝、私を含めて3人にのどの痛みが出ていたので下山で正解でした。個人で登っているのではないので、判断の誤りは大事につながります。まあ山は逃げないので、また来ればよい。「来たいなら、また来いよ。」という山の声が生徒には聞こえただろうか。

（顧問 佐々木）



新人歓迎山行（秋葉山）

北高山岳部 2023 年度活動予定

3/218-19	湖西連峰（中止）	1～2年生
3/28	小笠山	1～3年生
4/15-16	県一次予選（金時山）	2～3年生
4/23	4月月例山行（明神山）	1～3年生
5/3-4	新人歓迎登山（秋葉山）	1～3年生
5/13	二次予選下見	選手、1年生
5/20	二次予選下見	選手
5/27-28	二次予選（竜爪山）	選手
6/10	6月月例山行（宇連山）	1～2年生
6/16-18	東海総体（静岡県箱根周辺）	選手
7/8	7月月例山行（富士山宝永火口）	1～2年生
7/15-16	歩荷訓練（秋葉山）	1～2年生
7/21-22	テント泊訓練（学校）（中止）	1～2年生
8/3-7	夏山合宿（南ア塩見岳荒川三山）	1～2年生
8/24	8月月例山行 沢登り太田川源流	1～2年生
9/9-10	9月月例山行（八ヶ岳）	1～2年生
9/18	クライミングコンテスト	選手
9/30-10/1	校外練習（湖西連峰）幕営植生	1年生
10/21-22	新人大会（西部）尉が峰・富幕山	1～2年生
11/3	クライミングコンテスト	選手
11/11-12	競技力向上大会（東部 愛鷹山）	選手
11/18-19	11月月例山行（甲武信山）	1～2年生
12/9	歩荷大会（湖西連峰）	1～2年生
12/23-25	スキー合宿（長野県戸狩温泉）	希望者
1/12-14	スキー合宿予備日	希望者
2/3	2月月例山行（三河地区）	1～2年生
3/20-21	二次予選下見（東部 愛鷹山）	1～2年生



塩見岳東峰にて佐々木先生と生徒たち

夏山合宿を終えて

【西村 健太郎】

(2年男子部長)

今回はコース設定から私の夏山が始まった。

自分でどんな夏山合宿にするかを決めることは

最高に楽しかったしワクワク

した。初めの案の甲斐駒ヶ岳から北岳のコースはバカ尾根を攻略できず断念した。そして、今回のコースに決定した。いいコースだと思うがどうだろうか？そして驚くべきことに塩見からみえる南アルプスはまさにその初めに自分が作ったコースだった。その目の前に現れた5日間の行程、仙丈ヶ岳から北岳に繋がる稜線を、一望できた。そこで改めて、我々はこんな山々の中を歩いているんだなあ、と一步一步の積み重ねが描く軌跡がそこにはあった。

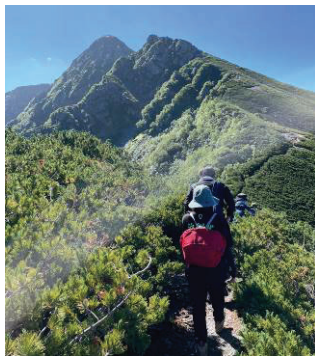
去年の夏山からちょうど一年が経ち、思い出が美化されていた。しかし、夏山は美しいことばかりではない、汚れていくコッヘルと身体、臭い靴下、腹12分目の飯、変わりやすい天候、疲れた体に容赦ない硬い寝床、遠い水場、不条理、その全てが夏山だったなあと思い出し笑えた。しかし、降りるとそんなこともすぐ美化されていくからまた笑える。家では山が恋しく、山では家が恋しいから不思議である。3日間の山行になったことは悔しい。嘘ばかりつく私だが、ここに嘘はつけない。しかし、それもまた夏山なのだろう。諦めの悪い男だ、消化不良だからこそ、むしろ、山を続けていく気がした。コース作りの過程で行きたい山もたくさんある。

逃げずにまっとけ！

さっきから脈略がなくて恐縮だが、私は部長としてどうだったのだろう。あまりに頼り甲斐があると、頼ってしまって良くないと思うのだが。一年生は相当体力があって驚いた。私が荷物を持つ場面があっても良かったのに。いいところを見せられると思ったのだが、頼り甲斐の調整を間違えたか。

そういえば、今回の試みとして本を持って行った。夏山に合いそうだなと『夜のピクニック』を選んだ。夏山の思い出にエンチャントされたこの本は、読むたび山が蘇るだろう。最後に夏山の感想に変えて、この本の一節を贈る。

「好きという気持ちには、どうやって区切りをつければいいのだろう。どんな状態になれば成功したと



言えるのか。どうすれば満足できるのか。」

異論は認めない。

【森口 怜緒菜】(2年女子部長)

今回の夏山合宿は予定が変更され3日間となってしまった。昨年と比較すると自分自身の成長を実感でき、逆に先輩としてまだまだ至らない点も多く発見した。

去年は歩くことに必死で足元しか見ることができず、壮大な風景を十分に楽しむことができなかった。一方で今年は、体力や様々な技術が向上し天候にも恵まれ、美しい風景や高山植物を眺めたり、隊のみんなと話したりしながら歩くことができた。余裕を持って登山をすることができたのは成長した点である。しかし、自分が先頭で歩いていた際スピードを出しすぎて、佐々木先生を置いて行ってしまった。自分の得意不得意を基準にしたペースではなく、隊全体にとって歩きやすいペースを作ることが重要だ。また、自分が昨年先輩方にしていただいたように、雑談を交えて一年生の気持ちが楽になるようにしたり、様々な山の知識を教えたりできればよかった。明日から気をつけよう、と思っていたところで下山することが決定し、とても後悔した。

私の所属する気象班と植生班の班の役目がなかなか果たせなかったことも反省点の一つだ。一日目に到着が少し遅れてしまい気象通報を聞くことができなかった。二日目はしっかりと聞くことができたものの、一日目の天気図をかけなかったために一日の天気の移り変わりが分からず、次の日の天気や台風の進路を予想することが難しかった。雲の種類もすっかり忘れていて観天望気ができなかった。植生は、山によって全然違った植生が見られるのだなと実感した。だが南アルプスに生えているのがなんの植物であるか分からなかった。こういった知識は、本来教える立場であるはずだった。自分の勉強不足を痛感した。

今回の夏山は悔しい思いをたくさんしたが、いい経験も多く濃い3日間であった。どんな出来事もプラスに捉えて、次回以降の山行で悔いの残らないように意識して行動したい。

最後になりますが、行動中声掛けに反応してくれたり注意点を伝達してくれたりしてとても嬉しかったです。みんなありがとう。

これからの山行も楽しもう！



〈余談其の一〉

三伏小屋まであと200歩という看板があったので何歩でたどり着けるか数えてみた。280歩だった。どうやら私は自分が思っているより小股らしい。客観的に自分を分析するというのも大事だなと感じた。ぜひ皆さんも自分自身を分析してみてほしい。

〈余談其の二〉

今年の夏山合宿は非常に天候に恵まれていた。私は星が好きで(山岳部に入った理由の一つでもある)、両日とも夜満天の星空を眺めていた。特に二日目の夜は遠くの眼下で稲妻が光っているのと無数のきらめく星を同時に見るという貴重な経験ができた。行動中足元ばかり見ていては疲れるだろう。早く寝るのも大事だが、空を見上げて普段なかなか見ることのできない絶景を全身で感じてみてはどうだろう。

【石川 大智】(2年男子副部長)

去年の夏山合宿と比べ、自分の視野が広がり様々な面から山を感じることができたと思う。しかし、視野が広がったということは、同時に見なければならぬものが増えたということでもあるため、その点去年より考えることが増え、新たな課題も多く見つけた。

体力面では余裕を持って歩くことができ、去年からの自分の成長を実感することができた。その余裕を隊の人が辛くなった時助けられるようしっかりと残しておくようにしたい。

逆に、技術的な面では自分の未熟さが目立つところがあったと思う。今回のルートでは大きな分かれ道は少なく、あったとしても看板があることが多かったこともあり、読図がおろそかになっていた。結果として問題なく到着することはできたが、自分の位置を理解しながら登っていたかという微妙なところがあるため、休憩ごとに自分の位置を確認するなど、工夫をし、改善するように努めたい。

今回は三日目に下山することになったが、もし四日目と五日目があったら、また違う結果になっていただろう。台風の影響もあり、今回はイレギュラーな状況での山行だった。このようなイレギュラーな状況下で冷静な判断をすることが必要だと思った。

そのためには、さまざまな可能性を考慮し、不測の事態に備えた計画を作ることが不可欠だと思う。今回の山行の登山計画作りで、僕は雑に計画を立て、万が一の状況を予測していなかった。計画の段階で山行の状況が大きく変わるということを今回よく理解することができた。もう登山計画を立てて行くような規模の大きな山行はないけれど、前もって丁寧な準備を心がけるようにしたい。

今回の山行は、自分の成長と自分の未熟さの両方を実感することができ、これからの部活動に活かせることを多く学ぶことができたと思う。そのような点から、今回の夏山合宿は成功であったと僕は思う。

三伏峠にて
幕営



【黒田 まりあ】(2年)

反省するけど後悔しない夏山を。

今回、私は沢山の大切な役割を与えてもらった。隊の後ろを歩くこと、トランシーバー役、医療担当、そして先輩として。

反省点は山ほどある。去年の先輩と比べて自分はまだまだ先輩になりきれていないのでこれから努力しようと思った。自分が先輩にして頂いたことを先輩に恩返しとして行う、目には見えないけど繋がっているんだと感じた。

また、自分だけの山の楽しみ方が分かってきた。写真を撮ることは私の趣味のひとつだが、今回山行と並行して趣味も充実させることができた。それは余裕が生まれて初めてできることだと今になって感じた。よく佐々木先生が自分の山の楽しみ方を見つけて欲しいとおっしゃるけど、最近山での楽しみ方のレパートリーが増えてきているのを感じる。去年は苦しい時間が長く、ただただ辛い時間に耐えることも多かったが、純粋に山を楽しむ時間が明らかに増えた。

それもあってか3日間の合宿がとても充実したものに感じ、去年よりも今年の達成感の方が大きいように感じている。

また、自分なりの山の歩き方のコツも掴んできた。ふくらはぎよりも太ももや足全体を上手く使い1歩1歩歩くイメージで登ったり、前の人との距離を広めに取り、自然と自分の歩き方ができるようにして、精神的余裕を意識的に作ったりすることができるようになった。

今回予定通り行えたのは2日目までで、3日目は下山という形になったが、OBの方もおっしゃっていたようにとても良い経験になったと思う。山行は必ずしも成功するわけではないと改めて感じた。むしろ、今までの山行は天気やみんなの体調にとっても恵まれていたなと感じた。早めにこのような体験ができて良かったと思う。

改めてこの部活は他の部活よりも命懸けだということを感じた。途中で諦めたり、安全策を取ることも大事。臨機応変に行動し、常に命を最優先に。

何より引率してくださった顧問の先生方、卒業生の方に感謝したい。

最後に今回の夏山で1番救われた言葉がある。そう、「山は逃げない！」

【出野 莉瑚】（2年）

今年の夏山登山は3日間しか行えず残念な結果になってしまったが、3日間だけでも楽しむことができた。今回の登山で一番嬉しかったのは今まで練習してきた成果をしっかり出せたことだ。去年の夏山は体力不足や足の怪我で満足に登れず周りの人にも迷惑をかけてしまった。なので今年は、登り切るだけでなく去年先輩方がしてくれたように他のみんなのサポートをしたり周囲や景色を見ることができるぐらいの余裕を持てるようにしたいと思い、たくさん練習したり歩くときの良くない癖を意識して治すようにしたり山の知識をつけたりした。その結果今回は、みんなの様子をしっかり確認しながら景色を見たりお喋りしたりして楽しんで山行をすることができた。

1日目の三伏峠小屋までの道のりは、大股じゃないと登れないようなところも多々あり少しきつかったが去年に比べれば全然疲れずに登り切ることができた。

2日目の塩見岳はサブザック行動かつ平坦な道が多めだったこともありあまり疲れずに登ることができた。

3日目もほとんど下っていただけだったのであまり疲れなかった。しかし崖みたいなどころが多かったり、前日の雨で道が濡れていたりしたせいで度々ひやひやすることがあった。速く歩くことも大切だが、場所に応じてゆっくりになってもいいから安全に歩くことも大切だと思う。また、疲れてくると歩くときの悪い癖が出てきてしまい足をくじいてしまうので、疲れてきてからはより一層歩き方に注意するようにしたい。

炊事に関しては、今回は天候と場所の問題で外で炊事をするのができずテント内の狭い空間での炊事になってしまったが、安全に美味しいご飯を作ることができたと思う。今回はできるだけ持っていく材料を減らそうと思ったので日にちや班をまたいで使う食材がいくつかあったが、その使う分量を間違えてしまった食材があったので今後はこのようなことがないようにそれぞれの班ごとにしっかり確認するようにしたい。夏山登山はとても大切で大きな経験なので今後の山行に活かしていきたいと思う。

【安藤 遙人】（2年）

山岳部に遅れて入部した僕は、2年生にして初めて夏山合宿を経験した。そんな僕は夏山合宿に初めはかなり不安を抱いていた。主な懸念としては自分の体力が持つかどうか。さらに4泊5日（結果的に2泊3日）という長い日程を乗り越えられるかどうかということであった。

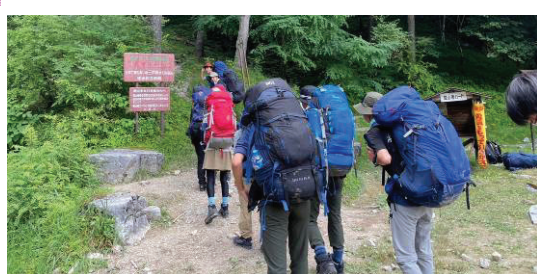
6月の宇連山の山行の際に体力面で痛い目に合った僕はそれを夏山で繰り返さないよう黙々と練習に励んだ。しかし「夏山という過酷な環境に本当に適応できるだろうか」という不安は消えることはなかった。

だが山に着くや否やその不安は一切無くなった。「これぞアルプス」と言わんばかりの大自然がそこから中に広がっていて、僕に不安を抱かせる隙を与えなかった。そんな大自然の中を仲間たちと歩けた僕はとても幸せだった。全く疲れなかったといえば嘘になるが、今までよりも景色を楽しむことができていたので体力的にも余裕があったのだと思う。

話は変わるが、今回の夏山で“仲間の存在”の大切さを改めて認識できた。自分が暑くてだるい時やゴールが見えなくて途方に暮れている時に同級生や後輩との他愛のない会話や励ましの声に幾度となく救われた。

テント設営も炊事も全てそうだが山での活動は1人1人が持っている要素や力を合わせることによって初めて一つのものへと成す。

これはまるで「人は支え合って生きている」と言う言葉を体現しているようで、山岳部だからこそ経験できたものであろう。最後になるが、アクシデントもあった夏山合宿であったがとても楽しかったし、何より自分の中の「山」の世界を大きく変え、そして広げてくれた。塩見岳の山頂で感じた心地よい涼風の肌触りは今でも忘れられない。この貴重な経験を無駄にせずに残りの山岳部の活動を仲間と共に励んでいきたい。



【内野 潤】（2年生）

私が今回の夏山で最も感じたことは、去年よりも「不安」を大きく感じることができるようになっていたということです。自分は2年生らしい行動ができているだろうか、装備に不備はないだろうか、1年生よりも余裕を持って歩けるだろうか・・・。

冒頭で「できた」と言っている理由は、この不安はいい不安だと自分の中で思っているからです。事実、この不安のおかげで事前準備により力を入れ、夏山への意識を高めることができました。

3日間の夏山の中で一番気分が高揚したのは、2日目の塩見岳に登る前の急斜面を見た時です。自分は今からここ登るのだ、という実感がわいてきて、何とも言えないうれしい気分になりました。ところどころ危険な部分もあり、少し怖い思いをした部分もありましたが、天候に恵まれたのもあって、終始楽しい気分で山を登ることができました。

反省点として、医療セットの中にある道具を取り出すのが遅かったことがあげられます。このことが、山行中に絆創膏などを出しづらくし、迅速な対応をすることを妨げていました。何がどの袋に入っているかをきちんと把握しておくべきでした。

また、山頂でのマナーも悪かったように思われます。写真を撮るときに、周りの人を押しのけてしまい、景色を楽しむ人の邪魔をしてしまいました。このようなことがあってはならないと思います。

そして、最後に、「4泊5日」の夏山がどれだけ稀有なものか、当たり前ものではないのかを痛感しました。先生から聞かされていた過去の夏山合宿の実績は、すべて4泊5日であることが前提のものであったので、このようなことになるとは思っていませんでした。しかし、終わった後で考えてみると、途中で中止になる要因はたくさんあることに気づき、去年の夏山を「普通」として考えていた自分が恥ずかしくなってきました。

私たちは、多くの支援を受けているからこそ夏山に行くことができています。そのことを忘れず、この経験をこれからの山行、人生に生かしていきたいと思います。

【鈴木 風雅】（2年生）

私達は日々、様々な選択を迫られます。今日の服は何にしようといった小さな選択から、何大学を受けよう、といった人生を左右するような大きな選択まで、数えきれないほどあります。とりわけ山での選択は、その一つ一つが非常に重く、隊員の命に関わるようなものもあり、正確かつ迅速な判断が求められます。今年の夏山合宿ではこのことを強く実感したのと同時に、これからの山や人生においてとても重要なことを学びました。

また、今年は読図長として、しっかりと地図で現在地を確認し、正確な判断をするよう心掛けました。この一年でかなり地図が読めるようになり、より正確な現在地を把握できるようになったと思います。地図が読めるようになるだけで、山行の見通しが立ち、かなり楽に歩くことができます。さらに、最近ではYAMAPで正確な位置を知れるようになったため、それをうまく活用するのがいいと思います。紙の地図で現在地を特定し、YAMAPで答え合わせ、という方法が非常におすすめです。やってみてください。

今年の夏山合宿は三日間と、去年よりは少し短かったですが、とても満足しています。下山を決めた日のミーティングで、「山は逃げない」と佐々木先生は仰いました。仲間がいて、体力があれば、いつでも山に行けるのです。北高山岳部に入って得た最高の仲間と、卒業後もまた山に行きたいです。OBとして夏山合宿にも行きたいです。…とは言いつつ、一ヶ月後には八ヶ岳、冬にはスキーなど、まだまだ皆で山へ行く機会があります。残りの一年間、一つの山行を楽しみたいです。

【影山 夏希】（1年）

私は今回の夏山合宿で、自分の知識と技術、そして山岳部としての意識が足りていないということを様々な場面で痛感しました。

私は炊事班に属しています。しかし、準備の段階から当日まで食糧計画の作成は先輩方に頼り切で、私はなんの役にも立つことができなかったと言っても過言ではありません。先輩方の優しさに甘えて仕事を任せてしまったことで、せっかくの成長の機会を活かせなかった自分に不甲斐なさを感じました。

また、合宿中はほとんど地図を見ることができず、自分たちの位置や目的地までかかる時間をきちんと把握しないまま歩いていました。「先輩方が地図を見てくれているから大丈夫だろう」という気持ちが自分の中に根付いてしまい、自分の考えが甘く、そしてとても危険なものであることに改めて気づきました。

このように、私は今回の山行で「先輩方や先生方がいなければ何もできない自分」であることを実感しました。今の全てにおいて受け身な自分のままでは、来年後輩ができたときに「頼りたい」と思ってもらえる先輩には到底なれません。今回の反省を活かし、炊事班としての勉強はもちろん、来年前輩として前に立てるように読図などの知識面、そして体力面の練習を重ねていく必要があると思いました。

また、今回の合宿では南アルプスの自然の雄大さに驚かされました。特に2日目の塩見岳では、目の前にそびえ立つ岩壁の迫力に圧倒されたり、1歩間違えれば落ちてしまいそうな場所を岩につかまりながら下ったりと、沢山の貴重な経験をしました。自分が今まで関わってこなかった世界を目の当たりにし、「こんな世界があったんだ」という深い感動を味わうことができました。

南アルプスを満喫し、それと同時に自分の知識・技術・体力の不足を痛感した、とても充実した合宿でした。今回の山行での経験や学びを決して無駄にすることなく、普段の練習や今後の山行を大切にしたいと思います。そして、今の先輩方のような「この人がいれば安心だ」と思ってもらえる存在に少しでも近づいていきたいです。

【白澤 里々咲】（1年生）

初めての夏山は正直かなり不安でした。自分の中で体力面での不安が大きく、前日は楽しめるのか、先輩たちや他のみんなの迷惑になってしまわないかということばかり考えていました。

しかし、結果的に思い出に残る夏山になりました。特に2日目に3000m級の山を登り、頂上から見た景色は今まで私が見た景色の中で1番綺麗でした。

また、たくさんの反省点も見つかりました。3日目の下山の時最終日ということで少し雑に下ってしまい、膝を痛めたり痣が何個か出来てしまいました。今回は最終日のため良かったですが、次の日や今後のことも考えて丁寧に下ることを心がけたいです。

先輩にただついて行くだけになってしまったので

今後は先輩たちに全て頼らずに自分でも読図をして現在地やコースなど分かるようにしたいです。

また、夏山を通して色々な人との関わりを増やすことが出来ました。特に、炊事では先輩方や同級生とたくさん話すことができ、とても楽しい時間を過ごすことが出来ました。

中学の時の部活では先輩など同級生の女子以外との関わりが少なく、部活の雰囲気もあまり良くなかったので協力し合い、仲間であることを感じさせる山岳部の雰囲気はとても心地よく、改めて山岳部に入ってよかったなと思えました。

今回の夏山を通して、自分の筋力不足を感じました。1日目に大股で登ってしまい、後半はそれが積み重なって足が動きにくくなってしまい、前を歩く人とても距離が開いてしまいました。1人がバテてしまうと隊全体に迷惑がかかってしまいます。そのため、今後は無理をしない程度で歩荷の重さを重くし回数を増やしていきたいなと思いました。

最後に、今回の夏山で私が楽しむことが出来たのは周りの方々の支えがあってこそだと思います。事前に計画を立ててサポートしてくださった先輩方や先生方、忙しい中来てくださったOBの方、登山中に会った小屋の方、一緒に頑張った同級生のみんな、たくさんサポートしてくれた私の家族など関わった全ての人に感謝したいです。本当にありがとうございました。この経験を今後活かしてさらなる自分の成長に繋げていきたいです。

【井上 怜】（1年）

今回の夏山登山では2日目の塩見岳が一番感動して、山岳のいい経験になりました。今までは手を使っただけの登山が少なかったです。しかし、今回の塩見岳はこれまでの山より斜面が急で足場の不安定さのこともあり、手を使っただけの登山が多かったです。慣れない登山の仕方だったので、時間がいつもよりかかってしまいましたが、一步一步慎重に登り安全な登山ができました。その分、山の景色を存分に楽しむことができました。今回は初めての2泊3日の登山で沢山の行動したことで、体の負担が大きく3日目の下山がキツかったです。2日目の塩見岳で8時間歩き、今までにない歩行時間と距離だったので、足への負担が大きかったです。その影響もあり、下山が大変だったと思います。

来年は4泊5日で今回の何倍も足腰に負担がかかるので、日々の練習で体力づくりとともに、しっかりと体づくりをして備えたいと思いました。

そして今回の登山のように景色を沢山楽しめるような体力もつけたいです。

また、今回の反省点である歩行の仕方についても様々な資料を活かして安全で早いかつ楽な登り方を見つけ、身につけたいと思いました。山の生活では早寝・早起きに気をつけて、時間通りに行動することができました。炊事では1日目の米炊きで水を多く入れてしまい、炊事メンバーにあまり美味しくない米を作ってしまった。米の量に応じて水をどれほど入れるかを覚えて、美味しい米を振る舞えるようにしたいです。今回の夏山では、山での体調管理の大切さを実感しました。今回は体調不良になりませんでしたが、いつ悪くなるかわからないので体調には敏感になりたいです。今回の山登りで歩行の仕方や体への負担など、次に活かせることが多くありました。このようなことを普段の練習や山登りのときに気づき、生かせるようにしたいです。山登りは一回一回の経験回数は少ないですが、一回の山登りから得られることは大きいので、一回一回の山登りを大切に楽しんで登りたいです。

【山空 一颯】(1年)

僕は説明会などで先輩から見せてもらった写真がとても綺麗で入部を決めました。入部してすぐに夏山の話が出ていたので、大きなイベントであると感じていました。

実際、今回の夏山は自分にとって初めての経験ばかりでとても緊張しました。いつも以上に長い日程で、荷物も多かったのも、最終日まで体力が持つか不安でした。普段の歩荷や外周などのトレーニングが非常に重要なのだと痛感しました。

準備の時は炊事やテントなど考えることが多くで大変でした。なかなか実感も湧かず、分からないことだらけで、あまり主体的に行動することは出来ませんでしたが、自分に与えられた役割は責任を持ってやろうと思いました。炊事班やテント班の先輩が何が必要かを考えて適切に分担してくれました。やはりとても信頼出来る存在だと感じました。来年は自分達が同じ存在になれるように頑張りたいです。

実際に行ってみると南アルプスは想像以上に雄大でした。普段なかなか見ないような植物が見られたり、雲が下に見えたりなど体験したことのない経験が出来ました。塩見岳は初めての3000mの山で登るのはキツくて少し怖かったけど、周りに他の南アルプスの山が見えてとても気持ち良かったです。山頂に着いた時はとても達成感がありました。

炊事やテント泊では同級生はもちろん先輩とも話してたのしく過ごせました。意外な一面とかも知れてよかったです。

結局日程を最後まで消化することは出来ず登りきれなかったのはとても残念だったけど、それも含めて登山なのだと感じました。最終的にコロナに感染してしまった人も多かったし、台風も近づいていたので先生の判断は正しかったんだと気づきました。

山は過酷な環境なので絶対に無理をせず、時には勇気ある撤退も必要だということ、先輩や先生のように自分より経験の多い人の指示には必ず従う必要があると強く感じました。

今夏の夏山で山の魅力も怖さも知りましたが、改めてこの部活に入ってよかったなと思いました。これからも山を楽しんでいきたいです。

【國武 優希】(1年)

今回の夏山合宿は、私にとって、自分自身の無力さ、自然の中で生活することの不便さ、その中にあ

る山や自然の魅力を知る良い機会となりました。合宿は2泊3日という短い期間でした。1日目と2日目の山行では、まだ体力的にも精神的にも余裕があったように思います。しかし先輩方は、前回の夏山合宿において4泊5日の3日目からがきつかったと仰っていました。そのきつい期間を乗り越えるという経験ができなかったのは、来年、先輩として再び夏山合宿に向かうにあたって、大きな枠組みではこれからの人生においても、一山岳部員として大きなハンディキャップになったのではないかと思います。だからこそ、今回経験できなかった分、これからは普段の部活動で、もっと自分に厳しく、もったきつい練習に取り組みたいと思います。

仲間たちや先輩方と寝食を共にする中で、私は常に自分が受け身でいたことに気づかされました。人に言われたことを言われたままにするだけ、あるいは人に頼ってばかりで、自分から動こうとしていなかったのです。今までの自分の積極性や主体性の無さ、自立への態度の悪さに反省しました。これからはそんな自分を変えていかなければならないと思いました。

自然の中で生活するのは凄く不便でした。お風呂に入りたい、スマホを使いたい、もっと美味しいご飯を食べたい(作ったご飯も美味しかったけれど)、もっと広い場所で寝たい、というようなことを何度も思いました。でも、皆と行動するうちに、その不便さの中にどこか喜びのようなものを感じられるよ

うになりました。不便だから皆と一緒にやっているんじゃないか、皆一緒だからいいじゃないか、そんな考え方ができるようになりました。

今回の夏山合宿で見た景色は、今までに見たことがないほど綺麗なものでした。困難を乗り越えて美しい景色を見る、そんな経験ができる山岳部に入っていたと心底思います。

北登会行事報告

「C34-2 山行」北ハケ岳・縞枯山(2403m) 2022.10.16(日)

残念ながら参加者少数のため中止としました。

「忘年会キャンプ」 2022.11.5(土) 須山建設海の家

浜名湖畔の素敵な会場で、大人はまったりお酒、BBQ、子供たちは焚き火！

参加者 大人 13 名 子供 3 名 (宿泊 13 名)



当然オーシャンビューです 早起きして浜名湖に映る朝日を拝む

「C34-3 山行」 湖西連峰 2022.12.3(土)

梅田親水公園から神石山まで登り、山頂でランチ。本隊は神石山で折り返しました。

大人 9 名、子供 2 名の 9 名参

高林(25) 堀(35) 鈴木克(36) 鈴木貴(48) 岩倉(48)



健脚組 名は雨宿り岩、中尾根パラダイスビューまで行ってきて、往路を戻り新所原駅へ。浜松駅南の「いりかま」で一杯飲んで労いました。

「C35-1 山行」浜石岳(707m) 2023.5.21(日)

今回は初めての乗り鉄山行企画。由比駅に集合し駿河湾を俯瞰する浜石岳を登る大人の遠足。帰りは駅前の食堂でサクラエビのかき揚げを肴に一杯。思いの外時間がかかり、薩埵峠は来年にお預け。



1P 目休憩場所は駿河湾ビューのポイント！ 山頂手前から霧が



浜石岳山頂にて 霧で富士山や駿河湾が拝めず

下山後はサクラエビのかき揚げで一杯

参加者 9 名：青野(13) 高林(25) × 3、島(27)、山本(28)、堀(35)、鈴木(36)、ゲスト寺田(36)

「家族園遊会」 2023.6.10(土) 須山建設海の家

昨年に続き初夏開催。6 月頭の大雨でアクセス道路が通行止のトラブルがありましたが、迂回路でたどり着きました。

雨が心配されましたが、土曜日はしっかりアウトドアを楽しめました。アサリ採り、火遊びにナイフ工作と子供たち。大人は猪肉などのジビエ焼き肉に猪鍋を肴にお酒もおいしくいただきました。

夜から雨になり翌朝はゆっくり片付けて解散しました。



参加者 大人 10 名 子供 3 名 (うち宿泊 12 名)

高林(25) × 4、鶴見(25)、鈴木(36)、岩倉(48) × 7

北登会行事案内

【C35-2 山行】 黒姫山(2053m)

9/23(土)に大橋登山口から黒姫山に登り、下山後は戸狩温泉スキー場で後泊 (コースタイム 7.5 時間)

日程：2023. 9. 23(土)-24(日)

宿泊：前泊戸隠キャンプ場 後泊飯山市戸狩温泉

会費：交通費は車ごとに実費精算、宿泊費 1.2 万円程度

集合：適宜調整し自家用車乗合で行きます

① 9/21(木)17:00 発 夜行前々泊 集合場所要調整

② 9/22(金)9:00 発 前泊 集合場所要調整

③ 9/22(金)18:00 発 夜行前泊 集合場所要調整

④ 9/23(土)8:00 頃 戸隠キャンプ場登山者用P集合

【C35-3 山行】 常光寺山(1439m)

北遠水窪町の落ち葉でふかふかの道を歩く
向井市場～上村農村公園～常光神社～常光寺山
(コースタイム 6 時間)

北登会交流イベント

※興味のある方は鈴木克巳までご連絡ください

【信越トレイル】

日程:2023.10.20(金)夜行 21(土)登山 22(日)帰着

会場:長野県飯山市戸狩温泉ヴィラみやもと泊

会費:交通費車毎清算、宿泊費 1.5 泊 12,000 円程度

集合:①10/19(木) 17:00 頃サンスト浜北

②10/20(金) 18:00 頃スヤマビルド

③10/21(土) 8:00 までに現地宿泊先

※希望者は 10/20(金)に野沢温泉サマースキー体験

【忘年会ハイキング】湖西連峰

日程:2023.12.2(土)

集合:8:30 新所原駅、9:30 梅田親水公園 P

※天気が良ければ、浜名湖越の富士山が拝めます。

※友人家族参加大歓迎

※神石山で温かいスープを用意します!

※希望者は下山後浜松駅周辺にてゆるい忘年会

【スノーシュー体験】愛知県茶臼山高原、天狗棚

① 2024.2.2(金)夜行-4(日)帰着長野県飯山市森の家

② 2024.2.10(土)愛知県天狗棚または茶臼山高原

③ 2024.3.9(土)北八ヶ岳周辺



【お花見ハイキング】

日程:2024.3.23(土) 9:00 現地集合

会場:竜ヶ岩山(引佐町)、竜ヶ岩洞

※最新情報は HP、FB 等で確認を

※返信はがきは概ね 3 週間前までに投函して下さい。

①黒姫山 9/15 締切、②常光寺山 11/2 締切

③秋葉山初詣 12/13 締切、④総会 1/6 締切

出欠にかかわらず、近況報告を兼ね必ず返信願います。

~~~~~事務局活動日誌~~~~~

3/8 37 期第 1 回役員会(5 名)

4/11 年会費納入依頼、行事案内封入(5 名)

4/12 行事案内発送 342 通

4/24 部活動後援会常任理事会 1 名、理事会 2 名

5/15 部活動後援会総会(欠席委任状)

6/30 部活動後援会懇親会(コンコルド) 2 名

※北高部活動後援会に OB 会費として

毎年 20,000 円を納めております。

8/下旬~会報編集作業

9/中旬 返信ハガキ、宛名ラベル等印刷作業

9/下旬 会報封入発送作業 461 通

○北登会関係計報(2022 年夏以降事務局把握分)

2/17 砂子誠之祐 初代会長

日程:2023.11.23(祝)

会費:交通費は車ごとに実費精算

集合:適宜調整し自家用車乗合で行きます

① 6:30 サンスト浜北コスモ石油 東側 P

② 8:00 飯田線向井市場駅(豊橋駅 6:00 発)

③ 8:30 上村農村公園 P 集合



【C35-4 山行】秋葉山初詣

日程:2024.1.3(火) 9:00 下社前駐車場集合

※天気が良ければ、富士山、遠州灘が見えます

状況によっては雪が残っています。

行事関係問合せ先

事務局:松山 053-474-9267 (TEL&FAX)

tetorunamoko@yahoo.co.jp

事業担当:鈴木 090-7698-1144 (携帯)

katsumi_hamakita@yahoo.co.jp



【現役サポート】湖西連峰

日程:2023.12.9(土)

集合:例年 8:10 頃 梅田公園 隣接公民館 P

北高山岳部が競技力向上のため、歩荷競走で入山します。梅田峠から多米峠を往復しますので各チェックポイントで保安要員担当します。協力をお願いします。

※協力いただける方は事務局まで連絡願います。

【北登会総会】

日程:2024.1.28(日) 17:00~

会場:マインシュロス(浜松駅北口)

会費:5,000 円(予定)

○事務局からお願い

北登会は若手会員交流活性化と北高山岳部との交流や支援を重点的に行っています。

特に、2022年度から顧問が1名減の2名体制となったことに危機感を感じています。OB会としても装備の充実や技術支援だけでなく、大学生OBのサポート参加費用を補助するため、2022年度予算から「現役活動援助事業費」の科目を新設し、今期は10万円を計上しましたのでご承知おきください。

なお、OBが現役山行等にサポート参加する場合、片道50km以上を対象に、往復距離km×10円/kmを交通費補助として北登会から支給しています。

また、若手会員交流活性化のため、家族で参加できる、キャンプやカヌー、スノーシュー体験などを企画しています。ぜひ参加してみてください。

さらに、お願いごとになりますが、現在北登会の会費を納めていただいている会員は概ね100数名で収入は30数万円です。一方、行事案内や会報は450通ほど発送しており、通信費が8万円(支出の25%)ほどかかっています。今後は会報発行や事務連絡のデジタル化による経費削減も進めていきますが、当面は紙会報の発送は続けていく予定です。

ぜひ現役山岳部支援と会員交流の為、会費の納入にご協力願います。

※宛先不明で会報が戻ってきってしまう事例が増えています。転居等で会報送り先が変更になった場合は事務局までご一報ください。

事務局アドレス:tetorunamoko@yahoo.co.jp

ともしび通信

2022年秋以降の北登会フェイスブックなどから転載させて頂きました。

OBOGのみなさんが全国各地の山を登っています。刺激を受け登りたくなりますね！

鶴見敏明(25回)

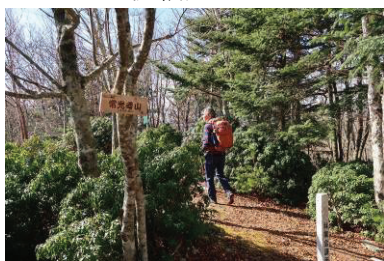
月例山行11月 常光寺山に登りました。

山頂ピストンの道が全てふかふか落ち葉

(2022.11.23投稿)



常光寺山 1,438m



落ち葉でふかふかの道を歩く



雪の南アルプスが頭を覗かせる

鈴木克巳(36回)

秋葉山初詣トレックに行ってきました。天気にも恵まれ、途中で富士山を拝み、山頂では太平洋、アクトタワーを眺めてきました。

北登会会員は48回の鈴木貴晴、36回鈴木克巳の2名でしたが、ビジターも含め総勢8名。歩行距13km、22,900歩のトレッキングでした。(2023.1.3投稿)



大東たかし(50回)

天竜区佐久間

の竜頭山へ

浜松市内で

スノーハイクが

楽しめるとは

知らなかった！

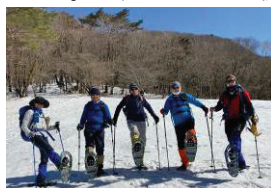
(2023.2.5投稿)



鈴木克巳(36回)

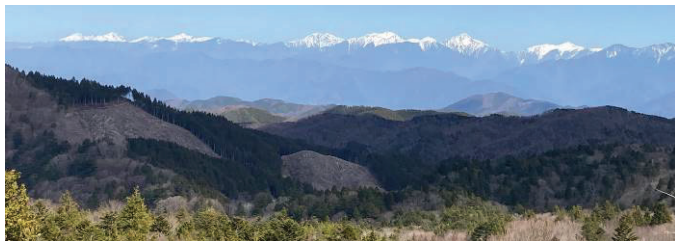
2/11に愛知県茶臼山スキー場近くの天狗棚まで雪を踏みに行ってきました。前日に雨が降ったようで、雪が少なかったです。それでも誰も踏んでいない雪をスノーシューで踏み締めてきました。

下りはちょっと滑りながら小走りにスリルを楽しんできました。(2023.2.12投稿)



山口 靖(26 回)

愛知県の最高峰である茶臼山（1416 m）に行ってきた。駐車場から山頂往復が約 1 時間で、登山というよりハイキング。好天で南アルプスが良く見えた。名古屋から見える南アルプスと、山々の配列と形が同じだった。（2023. 3. 15 投稿）



左から北岳、間ノ岳、塩見岳、荒川岳、赤石岳、聖岳、上河内

大東たかし(50 回)

長野県阿智村の大川入山（標高 1,908m）へ。

浜松からは 2 時間程度ですが、静岡の山とはまた違う、信州の高原の雰囲気のある山で、山頂近くの大笹原の風景や、アルプスと伊那谷の眺望が素晴らしい山でした！

帰りに寄った平谷村の日帰り温泉でも癒されました。これまで行ったことの無かったエリアですが、南信州の魅力、恐るべし（2023. 4. 3 投稿）



笹原が広がる。

登山道は整備されており、ヤブこぎしなくてもこの風景。



山頂から北の方向を望む

山口 靖(26 回)

四国の剣山、石鎚山、東赤石山を 2 泊 3 日で登ってきた。いつも思うことだが、山には人間同様にそれぞれ個性があり、その違いを感じながら登るのは楽しい。剣山は、山頂部が笹原に覆われた穏やかな山容で、頂上付近には中生代の層状チャートや石灰岩の露頭があった。石鎚山は、ロープウェイを利用して登り応えがあった。何ヶ所かの鎖場のうち最初の「試し鎖」だけ登ってみたが、腕力が必要だった。弥山山頂に到着した時は霧だったが、1 時間ほど粘っていたら霧が晴れ、天狗岳などの素晴らしい眺望が開

けた。また天狗岳への痩せ尾根はスリル満点だった。

石鎚山の険しい山容は、新生代中新世のカルデラ形成に伴う安山岩質の岩石が作っている。3 日目の東赤石山は、山頂付近にはカンラン岩が分布し、その鉄分が酸化して赤っぽい色を示す。登山道沿いの溪流は三波川変成岩類、透き通った沢水、周囲の広葉樹の新緑が素晴らしい景観を作っていた。

コロナ禍以来、日本アルプスの山小屋は利用しづらくなったため、（山小屋に泊まらずに）街中に 1 泊～3 泊して日帰りの山登りを連続させてきた。

しかし、今回は 2 日目の石鎚山の疲れが 3 日目に残り、東赤石山の往復（標高差 1037 m）はかなり体に応えた。コロナも下火になったし、年齢も考えて見直す時期かもしれない。（2023. 5. 28 投稿）



下から見上げた石鎚山の岩壁。天狗岳（左）と弥山（右）

島 馨(27 回)

今週も赤城山系火起山（1352m）に行きました。どこかの山と同じ高さです。先週満開だったヤマツツジは終わっていました。途中で指に蝶が停まってしばらく離れなかったので写真に収めました。google lens で検索するとパンダと同じでササしか食べないヤマキマダラヒカゲでした。



<https://www.insects.jp/kon-tyoyamakima.htm>

風向きが悪かったので鍋割山に移動して飛ばうとしましたが風が弱く浮き上がれませんでした。

夕方になって風向きが変わったため、いつもの火起山から下山飛行しました。（2023. 6. 6 投稿）

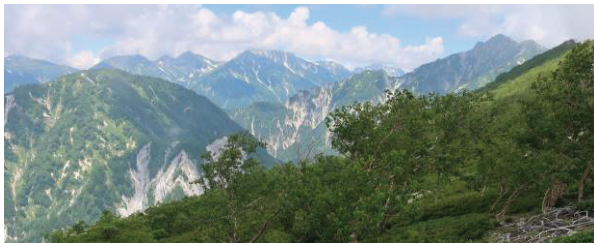


山口 靖(26 回)

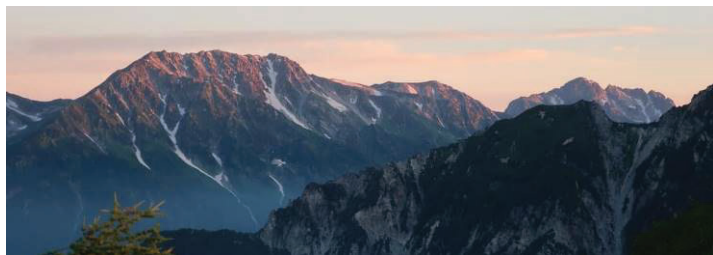
北アルプスの七倉岳（2509 m）を登ってきた。北アルプスは、2018 年の餓鬼岳以来 5 年ぶり。2019 年は仕事が忙しく（海外出張 7 回!!）、2020 年からはコロナの影響で行けなかった。今もコロナの影響は残っていて、ほとんどの山小屋は事前予約が必要で

(以前は予約なしで泊まれた)、しかも定員を絞っているようだ。今回、一週間前に宿泊予約をしようとしたら、いくつかの山小屋は満室だった。それでいろいろ考えて、あまり人が多くない静かな山域ということで、七倉山荘と船窪小屋に予約を入れた。結果的に正解で、船窪小屋の宿泊者は9名だけだった。小屋の前後の針ノ木峠～烏帽子岳の縦走路はアップダウンの大きい難路であること、日本百名山はないこと、七倉から船窪小屋までの標高差約1500mの登りがキツイことなどが理由だろう。

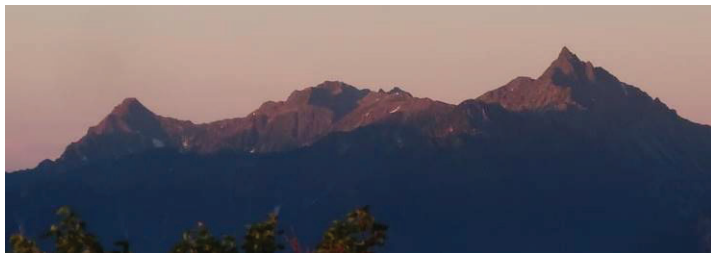
一日目は、登山口の七倉山荘まで行って温泉に入り、翌日に備えた。二日目は早起きして5時20分に出発。七倉から船窪小屋・七倉岳までの約6時間の登りは前評判通りかなり厳しく、さすがに体に堪えた。三日目に針ノ木峠まで縦走して扇沢に下山するつもりだったが、二日目の疲労蓄積と三日目夕方に用事が出来たことから、計画を変更して七倉に戻った。それでも船窪小屋と七倉岳山頂で日没と御来光を見ることができ、槍・穂高から立山・剣岳までの大展望を楽しめた。高校時代の1972年に烏帽子岳～野口五郎岳～雲ノ平～三俣蓮華岳～黒部五郎岳～薬師岳を歩いたが、そのルートの前半部も良く見えた。さらに美味しい食事とランプで有名な船窪小屋に泊まれたし、お花畑では雷鳥の親子に出会え、久々の北アルプスを満喫した。(2023.7.29投稿)



船窪小屋の手前からの展望。立山や針ノ木岳などが見える。



船窪小屋から朝の立山と剣岳



船窪小屋から朝の槍・穂高。右が槍ヶ岳、真ん中が奥穂高岳、左が前穂高岳。

原田雄一郎(37回)

木曽駒ヶ岳に行きました。

2,612mまでロープウェイで行けるので、実質300mの登山です。天候に恵まれ、満天の星、雲海、全方位の名だたる山々(槍ヶ岳、八ヶ岳、北岳、富士山、御嶽山、乗鞍岳)を眺めつつの稜線歩き、宝剣岳の鎖場、と良いとこどりの山行となりました。山岳部時代は雨ばかりだったので、私も年を重ねて日頃の行いが良くなったのだと思います。

(行程)

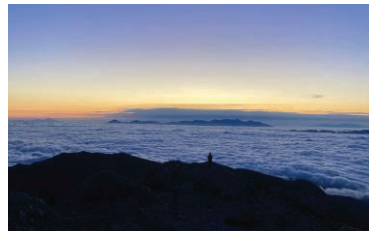
8/4 1.5km 1時間30分 16:45 千畳敷駅(駒ヶ岳ロープウェイ)-18:00 中岳-18:15 頂上山荘

8/5 2.7km 3時間40分

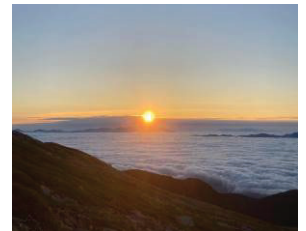
4:20 頂上山荘 -4:40 木曽駒ヶ岳(御来光)-5:20 頂上山荘 6:50 頂上山荘-7:00 中岳-7:15 天狗荘(伊那前岳)

-8:25 天狗荘-8:45 宝剣岳-9:20 極楽平-9:50

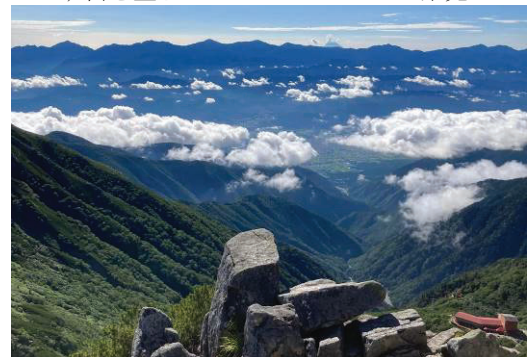
千畳敷駅(駒ヶ岳ロープウェイ) (2023.8.9投稿)



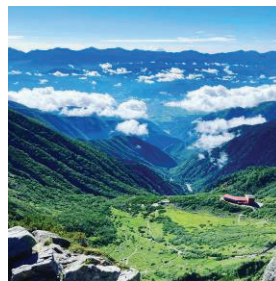
八ヶ岳を望む



ご来光



宝剣岳山頂より南アルプス連峰、富士山を臨む。



左) 極楽平より千畳敷、駒ヶ根市内、南アルプス連峰、富士山を臨む



右) 無事下山

北高山岳部サポート情報

北登会では2人の顧問で1年生14名(男子8、女子6)、2年生11名(男子8女子3)合計25名の大所帯の北高山岳部支援を重点的に取り組んでいます。

装備の充実や山行、合宿のサポート参加、差入など

重点的に行っています。サポート参加してくれる大学生 OB も支援しています。

●湖西連峰歩荷競争 2022.12.10(土)

北高山岳部が競技力向上のため歩荷競走タイムトライアル。梅田公園から神石山を經由して多米峠を往復。各チェックポイントで保安要員担当しました。OB4 名に加えて父兄も名一緒に歩きました。最終組 13 : 00 無事ゴール。北登会から差入れもしました。

山口 (26)、堀 (35)、鈴木克 (36)、大西 (73)



公民館をお借りして開会式

山梨県から駆けつけて

くれました現役大学生 OB の大西君



神石山から浜名湖越にアクトタワー、北東方向には富士山も綺麗に見えました

●長野県戸狩温泉スキー合宿 2022.12.23-26

妙高から飯山市に会場変更しました。初日は雪不足で戸狩がオープンできず、野沢も強風でクローズ。戸狩にて初心者レッスンと雪遊び。2 日目は野沢でスキーを楽しむ。

3 日目は待望の大雪。戸狩で新雪 40cm を堪能しました。今回は最新のレンタルを手配できたのでスキー板、ビンディング調整などのトラブルはありませんでした。鈴木 (36 回) 3 泊 4 日でフルサポート



12/24 戸狩スキー場はオープンできず、歩いて登って基礎練習
サンタクロースから駄菓子のプレゼントがありました



2 年女子の雪だるま 1 年女子の雪だるま 2 年男子はかまくら

お世話になった岸田屋の土蔵
の前で女将さん達と記念撮影
蔵の屋根の上の雪に注目！



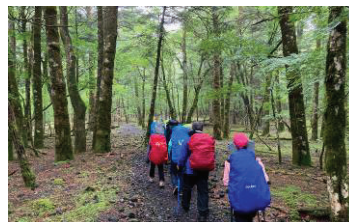
●富士山宝永火口 2023.7.8

高所での歩き方を習得する目的で実施。

当日は雨と強風、低温と夏山合宿に向けて、課題が見えた有意義な参考でした。

北登会から行動食、医療用品を差入れしました。

サポート参加 OB は鈴木克 (36)、影山 (45)、鈴木貴 (48) 栗山 (49)、鈴木豪太 (75) の 5 名バスに同乗



水ヶ塚から入山 樹林帯から抜けると強風 耐風姿勢の練習に



宝永山火口巡りは断念し、富士宮口新 5 号目へ下山しました

●秋葉山歩荷登山 2023.7.15-16

夏山合宿に向けた歩荷宿泊訓練を目的に実施。

OB のフルサポート参加は堀 (35)、鈴木克 (36) 猛暑の中の登山、熱中症にならないようコンディショニングがポイント。ヤマヒルにかまれた人もいました。足首捻挫のトラブルもありましたが、全員で対応し、時間をかけても無事行動できたようです。



初日は霧が出ていて幻想的な趣きでした

上社手前の山門修復工事が終わり綺麗になっていました



2 日目は好天気 黄金の鳥居が眩しい



上社本殿前に全員集合



2年生



上社で影山直男樹(45回)さんがサプライズ差入！

フルーツあんみつ美味しかったです！

生徒個々には水分塩分補給用行動食を差入。医療担当に夏山合宿にも装備するよう応急処置用品を差入れ



●夏山合宿サポート

今年の夏山合宿 8/3～7 伊那大島から入山し南アルプス塩見、荒川三山を縦走し樫島に下山する計画でしたが、三伏峠まで到達したものの体調不良者が出たのと、台風の接近が危惧されたので、塩見岳はサブザック行動で登って2泊3日で伊那大島に下山しました。

大学生 OB 鈴木豪太(75)さんと父兄でもある OB 影山直男樹(45)さんがフルサポート参加してくれました。

北高部活動後援会から外部コーチとして1名分の旅費日当が支給されました。北登会から謝礼として大学生には5000円/人の図書券を贈らせていただきました。



生徒個人には塩分とアミノ酸補給を重点的にセレクトし差し入れしました
医療共同装備に冷却バック、経口補水液など熱中症対策グッズを差入しました

会員交流イベント関連お知らせ

●現役スキー合宿への同行

年末(12/23-25)開催予定の2泊3日のスキー合宿について、バスの座席に余裕があります。山岳部顧問の了承も取れましたので、OBOG家族でスキーに行きたい方相談に乗ります。北高集合解散、バス代は割り勘、北高山岳部と同じ宿に宿泊となります。部屋は家族単位で確保予定。高校生以上の父兄同伴としてください。スキー中は家族単位で自由行動となります。

参考費用 1泊2食7,000円程度
昼食、リフト券代等5,000/日
スキーセットレンタル3000円/日
バス代14,000円程度(参加人数により増減)

●北登会所有備品の貸出について

北登会では山行や家族園遊会、その他会員相互の親睦と若手会員参加促進のため、下記の装備を所有しています。

会員の皆様に利用希望あれば、お貸しすることが可能ですので、事務局または鈴木克巳までご連絡下さい。

役員が分散して保管しているため、2週間程度前に連絡いただくと助かります。また、浜松市内での引き渡しを原則とさせていただきます。

項目	備消耗品名称(規格)	数量
登山 装備	軽量ツェルト	2個
	救急セット	2個
	ガスコンロ(セパレートCBタイプ)	1個
	トレッキングポール(モンベル製)	2組
園遊会 用品	クーラーボックス	2個
	保冷剤(M)	5個
	カセットコンロ(防風型)	3個
	焼き肉プレートL	2枚
	焼き肉プレートM	1枚
	ジンギスカン鍋(鋳物25cm)	1個
	鉄製角型プレート(25cm*25cm)	2枚
	大鍋	1個
	火ばさみ*2	2個
	トング*4	4個
	プラ取手付き深皿	10枚
	プラどんぶり中	10個
雪遊び 用品	スノーシュー(モンベル製)	4個
	ストック用深雪リング(モンベル用)	4個

編集後記 会報編集副担当 岩倉万友美(48回)

昨年の編集後記を入力したばかりと思っていましたがあっという間に一年が経っていました。時の流れの早さに驚いています。

昨夏は西表島、沖縄本島、能登、富士山とアウトドア三昧の日々でしたが、今夏は中学生になった息子が部活三昧でどこにも行けずじまいでした。

私個人では、シーカヤックで浜名湖1周にチャレンジ中です。プロのガイドさんに伴走してもらいながら、7月には庄内湖を15kmほど漕ぎできました。

現役の皆さんの山行や夏山合宿の様子を作文等から拝見して、山に行きたい気持ちがふつふつと高まっています。

タイミングが合えばぜひ山行にも同行できたらと思います。

(会報発行が目標より遅くなり、C35-2の締切後となり申し訳ありませんでした。鈴木編集長)

第37期会計報告 (2022 年 4 月 1 日～2023 年 3 月 31 日)

収入の部

入会金	0	
年会費	327,000	108 名 (1 名は2 年分)
雑収入	4	
前期繰越金	649,112	
収入合計	976,116	

支出の部

総会費	0	
会議費	0	
通信費	87,862	行事案内、会報発送
事務備品費	56,569	封筒印刷他
渉外費	20,000	部活動後援会費
会報発行費	30,800	16P×600、葉書 461
現役サポート費	106,270	差入、OB 旅費補助
その他事業費	47,991	園遊会等行事補助
山岳用具購入費	137,379	スノーシュー、カセットコンロ他
遭難対策基金積立	0	積立額 3,420,000
予備費	0	
支出合計	486,871	
次期繰越金	489,245	

第37期事業報告 (2022 年度)

1. 現役生との交流、サポート
- 部活動後援会 (年会費 20,000 円納入)
- 登山技術図書貸与 2 種×2 セット
- 月例山行夏山合宿等サポート、差入れ
- 歩荷競走保安要員 12/10 (湖西連峰) 4 名
- スキー合宿 12/23-26 (戸狩温泉) 技術サポート 1 名
2. 会報の発行 夏号
- 600 部印刷 (9/21 発送 464 通+北高 80 部)
3. C 山行
- C34-1 5/15(日)御在所岳 1212m(三重県) 4 名参加
- C34-2 10/16 (日) 縞枯山 2403m (北八ヶ岳) 中止
- C34-3 12/3(土)湖西連峰 (梅田～神石山) 11 名参加
4. 家族園遊会
- 6/4 (土) 須山建設海の家 18 名参加
5. 忘年会キャンプ
- 11/5(土) 須山建設海の家 16 名参加
6. 遭難対策基金積立
- 0 円 累計 3,420,000 円

第38期北登会役員 (2023 年度)

顧問	-
会長	高林 宏 (25)
副会長	山本寿彦 (28) 鈴木克巳 (36)
会計監事	阿部邦彦 (12)、-
会計	松山英達 (20) 事務局兼務
常任幹事	大谷一雄(21)、鶴見敏明 (25)、 深谷直久(41)、北嶋敏明(43)、 鈴木貴晴(48)、大東たかし(50)
HP管理	鈴木貴晴(48)
会報編集	鈴木克巳(36)、岩倉万友美(48)

第38期予算 (2023 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日)

収入の部

入会金	0	
年会費	318,000	
雑収入	3	
前期繰越金	489,245	
収入合計	807,248	

支出の部

総会費	10,000	
会議費	0	
通信費	86,000	
事務備品費	60,000	封筒、用紙インク
渉外費	40,000	部活動後援会費
会報発行費	30,000	
現役サポート費	100,000	差入、OB 旅費補助
その他事業費	40,000	園遊会等行事補助
山岳用具購入費	20,000	携行コンロ
遭難対策基金積立	0	積立額 3,420,000
予備費	421,248	
支出合計	807,248	

第38期事業計画 (2023 年度)

1. 現役生との交流、サポート
- 部活動後援会 (年会費 20,000 円納入)
- 月例山行、夏山・スキー合宿支援 (差入サポート参加)
- 山岳技術書貸与、医薬品等寄贈
- 12/9 湖西連峰歩荷競走保安要員派遣
2. 会報の発行
- 秋号 9 月下旬発行 (600 部印刷) 会員+生徒教諭等へ配布
3. C 山行
- C35-1 5/21(日)浜石岳 707m(由比駅集合)
- C35-2 9/23 (土) 24(日)黒姫山 2023m (長野県)
- C35-3 11/23(祝)常光寺山 1439m (水窪町)
- C35-4 1/3 (水) 秋葉山初詣 885m (春野町)
4. 家族園遊会
- 6/10 (土) 須山建設海の家 (三ヶ日町都筑 926)
5. 若手会員交流イベント(随時開催)
- キャンプ (焚き火)、カヌー、沢遊び、サイクリング、
- スキー、スノーシュートレッキングなど各種体験
6. 総会
- 1/28(日) 17:00～浜松駅界限の予定
7. 遭難対策基金積立
- 積立累計金額を維持

編集発行 北登会事務局 松山 (20 回)
〒432-8004 浜松市中区文丘町 29-29
TEL・FAX 053-474-9267
e-mail tetorunamoko@yahoo.co.jp
2023 年 9 月 600 部発行 通算第 45 号